

相模湾より採集されたイボガニ（十脚目：異尾亜目）

倉持卓司・池田 等

Takashi Kuramochi and Hitoshi Ikeda:
Oedignahus inermis (Stimpson) (Decapoda: Anomura) Collected from
the Coast of the Miura Peninsula, Sagami Bay, Kanagawa Prefecture

はじめに

イボガニ **Oedignahus inermis* (Stimpson, 1860) は、タラバガニ科に属する甲殻異尾類の一種である。本種は、日本列島周辺海域において、日本海側では九州北部以北、太平洋岸では松島湾以北に分布することが報告されている（三宅, 1991；朝倉, 1995 など）。筆者らは、これまでに採集記録のない三浦半島相模湾沿岸よりイボガニを採集したので、分布の南限記録として報告する。

検討標本

2005 年 9 月・神奈川県横須賀市佐島, 潮間帯・甲幅 (W) : 9.2 mm 甲長 (L) : 8.7 mm (図 1) HSM-Cra-0175 (HSM-Cra: 葉山しおさい博物館甲殻異尾類標本番号)。
1965 年 7 月・神奈川県三浦郡葉山町一色芝崎鮫島, 潮間帯・甲幅 (W) : 18.1 mm 甲長 (L) : 17.1 mm。

記 載

甲形は、ほぼ台形に近い。甲および脚の表面にうろこ状の突起があり、突起前縁には短毛を有する。甲側縁に棘はなく、鰓域は弱く突出する。触角棘は扁平で細い。



図 1. イボガニ *Oedignahus inermis* (Stimpson, 1860). 産地：神奈川県横須賀市佐島, 潮間帯。甲幅：9.2 mm。2005 年 9 月採集。

第 2 触角柄の基部の外角がわずかに突出し短棘状になる。鉗脚は右側が大きく、各節にいぼ状の突起が密生する。第 2-4 脚は、円筒形でわずかに毛を有する。第 2-3 脚は、ほぼ同長であるが、第 4 脚は短い。腹部の第 1 節は中央板のみがあり、第 3-5 節が融合して袋状になる。

考 察

相模湾に生息する異尾亜目の分類学的研究は、昭和天皇の御採集品を用いて三宅 (1978) により報告されているが、イボガニの記録は含まれていない。また、相模湾の潮通しのよい潮間帯転石域には、同じタラバガニ科のイボトゲガニ（ヒラトゲガニ）*Hapalogaster dentata* (De Haan, 1844) が生息しているが、イボガニとは、甲の側縁に 6-7 の鋭歯があり、甲および脚部に剛毛を密生させることで区別される。また、北海道以北に分布するシワガニ *Dermaturus mandtii* Brandt, 1850 は、甲および脚の表面に多数の横じわがあり、しわの前縁に短毛を列生させ、鉗脚および歩脚の指節に短毛が粗生することで区別される。

イボガニは、本州以北、ベーリング海からカリフォルニアに至る北米太平洋沿岸の潮間帯に分布する寒流系の種であることが知られている（三宅, 1991；朝倉, 1995；本尾・豊田, 2005）。相模湾は黒潮系暖流の影響を受け、それに準じた生物相を示しているが、本種の記録により相模湾にも親潮系寒流要素が含まれることが示唆される。

* カニ類の *Sphenocarcinus stimpsoni* (Miers, 1886) の和名もイボガニであり、本報告のヤドカリ類の *Oedignahus inermis* (Stimpson, 1860) と同名で紛らわしいため、本報告の *Oedignahus inermis* (Stimpson, 1860) の和名をイボガニとし、*Sphenocarcinus stimpsoni* (Miers, 1886) については池田 (1998) に準じイボツノガニを用いる。

引用文献

- 朝倉 彰, 1995. 異尾下目. 西村三郎編著, 原色検索 日本海岸動物図鑑Ⅱ, pp.347-378. 保育社, 大阪.
- 池田 等, 1998. 相模湾産深海性蟹類. 180pp. 葉山しおさい博物館, 神奈川.
- 三宅貞祥, 1978. 相模湾産異尾類. 200+161pp. 保育社, 大阪.
- 三宅貞祥, 1991. 原色日本大型甲殻類図鑑(Ⅰ). 261pp. 保育社, 大阪.
- 本尾 洋・豊田幸詞, 2005. 京都府沿岸の異尾類. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (11): 43-49.

(倉持: 葉山しおさい博物館気付,
池田: 葉山しおさい博物館)